

# 第2次黒部市総合振興計画審議会

## 第2回第2部会【産業・観光】

### 議 事 概 要

日 時：平成29年2月1日（火）14:00～15:45

場 所：黒部市役所 202・203 会議室

出席者：委員8名（欠席なし）、専門委員1名（欠席なし）

幹事0名（欠席1名）、計画主任4名（欠席なし）、事務局4名

#### 次第

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
  - （1）計画策定に係るこれまでの経過について
  - （2）各委員からの意見・提言について
4. 協議事項
  - （1）施策体系（案）及び重点メニューについて
  - （2）第2次黒部市総合振興計画中間報告（案）について
  - （3）その他
5. 閉会

### 主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

#### 部会長あいさつ

○部会長：本日はご多用中にも関わらず、第2回部会にご出席いただき感謝申し上げます。  
第1回部会では、第1次総合振興計画の成果、第2次総合振興計画のまちづくり方針や施策体系について審議いただいた。本日は前回の意見を踏まえ、庁内で再検討、修正した施策体系（案）や重点メニュー、第2次黒部市総合振興計画中間報告案について、意見をいただきたい。みなさんの活発な議論により、今後の黒部市の未来創造に向けて有意義な方向性を導き出せるよう各委員のご協力をお願いしたい。

## 報告事項

(資料1：計画策定に係るこれまでの経過について、  
資料2：各委員からの意見・提言について、事務局より説明)

委員からは特に意見なし

## 協議事項

(資料3-1：施策体系(案)、資料3-2重点メニューについて、事務局より説明)

- A委員：施策体系については良いと思う。「商業の振興」における重点メニューは1つもなく、「工業の振興」における重点メニューも「新規誘致のための施策推進」のみである。黒部市の産業構造は第二次産業が大きく、商工業を中心とした雇用が多いかと思う。しかしながら、現在、事業所数が減少傾向にあり、特に商業の衰退は著しい状況にある。街の賑わい創出のため、商業の活性化もしくは起業支援を重点メニューとして設定してほしい。
- 部会長：黒部市の就業者数は第三次産業が多い。特に商業は脆弱な経営基盤であると想定され、大規模な商業施設の出店に伴い、店じまいする場面が多いかと思う。今後、高齢化が進む中、買い物をする場所が少なくなるため、商業関係者だけではなく消費者の立場からも黒部市の商業のあり方について提案ができないものかと思う。
- B委員：農林水産業も大事であるが、商業も重視すべきかと思う。商店街は後継者不足のため廃業が多く、日の目を当てる施策が必要かと思う。県・市ともに中心市街地活性化を謳っている計画はあるが、具体的なアクションにつながっていない。商工会議所も頭を悩ませており、施策を盛り込んでほしいと思う。
- 事務局：「商業の振興」に施策が少ないとのご指摘であるが、「工業の振興」に挙げている事業メニューは商業共通であるため、少ないように感じられるのかと思う。起業支援等の重点メニュー化については、担当課と相談して前向きに検討させていただきたい。また、事業メニューの記載方法は、「商業の振興」にも共通の事業メニューを記載すべきか。
- B委員：商業共通と記載があるが、取って付けたように思う。「商業の振興」においても事業メニューを記載すべきかと思う。
- 計画主任：人口が減少し、空き家・空き店舗が増えている。10年前の計画をベースに議論している関係もあり、変化を反映しきれていないことは反省すべき点であった。「工業の振興」において「起業支援体制の整備推進」を商業共通として事業メニュー

に挙げているが、起業支援となると商業が中心であるため、商業に移して整理したい。  
また、現状の事業メニューにおいては中心市街地活性化と空き店舗対策を分けて記載しており、どちらが重点なのか悩ましい状況にある。各委員からご意見いただければと思う。

- A委員：工業は創業支援、商業は起業支援として使い分け、商業の起業支援を重点メニューにしてほしいと思う。
- 部会長：情報化が進み、インターネットを介した買い物の普及により、商業環境への影響が大きいことが懸念される。また、最近では、家電販売店の魚津市への移転や商業施設の閉店など、黒部は商業の不毛地帯になるのではないかと思う。余談であるが、YKKは、過去に最大26台の通勤バスが運行しており、当時、魚津市にあった工場と従業員の自宅付近をドアツードアで行き来していた。そのため、飲み屋などに立ち寄る機会などが失われ、駅前を活気づけられなかったのではないかと個人的に推測している。  
事業メニューの記載方法は共通表記ではなく、区分ごとに示してほしい。
- 事務局：検討させていただきたい。
- C委員：市で考えている空き家対策は、住民の移住目的か起業に対する活用目的なのか教えてほしい。
- 計画主任：商工観光課としては、三日市、生地、宇奈月温泉における空き店舗を活用した起業支援を想定しており、現在は、飲食系の店舗であれば200万円の支援を実施している。
- C委員：現在も支援しているにも関わらず、店舗が増えない理由は街に活力がないためかと思う。
- D委員：先ほど、買い物難民の話があったが、高齢者が街中に買い物に出かけられる交通の仕組みが必要と感じた。すぐには結果が出ないかと思うが、店舗や病院ごとにバス停を設置して移動の利便性を高めてはどうかと思う。
- E委員：魚の駅生地と宇奈月温泉を結ぶ観光バスがあれば良いと思った。海辺と山間部を運行することで市民も含め、回遊性が高まり、賑わいが創出されると思う。
- 部会長：南北循環バスの社会実験を実施しているが、乗客が少ないようである。多くの集客力を持つ宇奈月温泉について濱田委員から意見を伺いたい。
- F委員：宇奈月温泉は冬期間の集客が問題である。北陸新幹線開業時は良かったが、一年が経ち、少し陰りが見えている。北海道は雪を見に来る多くの外国人で賑わいを見せている。
- C委員：アルペンルートでもライバルは北海道。春は九州から雪の大谷を見に来る方が多い一方、夏にかけて北海道に行く方が増えていく傾向がある。
- F委員：冬に多くの方が訪れ、空き店舗に入った起業者が潤うようにならない。

- C委員：今日、ほろ酔いクーポンのチラシができた。以前に比べ、外に飲みに出る人が減少したこともあり、クーポンをきっかけに宇奈月温泉の商店や旅館が潤えばと思う。また、交通についてであるが、観光客にとって公共交通を自由に利用できる一日フリー切符を作成した方が良いと思う。
- 部会長：フィッシャリーナは整備されたが、市民の認知度は低いように思う。ただ、天気の良い週末は駐車場が満車になるほど来訪者がおり、特に岐阜や長野ナンバーの車が多いようである。子供がいる場合、他の施設は三千円程度の費用を要するがフィッシャリーナは費用がかからないことが要因であるとのことである。つまり、黒部市には資源はあるがうまく使い切れていないということかと思う。市内全体をうまくつなぐことを考えていくことが重要かと思う。
- A委員：施策体系について、わかりやすくなっているが、図の中に農業、水産業や工業、商業の連携を示せればと思う。
- D委員：道の駅ができれば、産業間を連携する拠点施設となる。道の駅は、他の部会で議論されている内容かもしれないが、産業の中でも示せば良いと思う。
- 事務局：道の駅については第3部会のみで議論するのではなく、第2部会においても「生産・流通・販売対策促進事業」の中で議論していければと思う。
- A委員：事務局の言うことは理解できるが、体系を見て、すぐわかるようにできればと思う。
- 部会長：多岐に渡る問題があるため、すぐに答えがでる問題では無いように思う。
- G委員：農業の「担い手育成の推進」について、認定農業者や集落営農組織はすでに網羅されていると思う。集落営農に対する手当をしないと5年で潰れる組織も出てくると思う。これからの農業は外国人に頼らないといけない状況にあり、就農支援が重要である。集落営農は株式にして認定農業者を育て、責任体制を構築するよう行政からも指導や支援をすべきかと思う。
- 事務局：施策体系についてであるが事業メニューの下に個別事業が下がってくる。農業経営の組織化や法人化、新規就農の事業が入ってくる。
- D委員：事業メニューの括弧書きが余計かと思う。
- H委員：集落営農については高齢化や体制に課題があると思う。集落営農組織の合併や統合によって組織の強化を図る必要がある。また、冬場の影響が大きく、農閑期対策も求められる。農業に対する補助金などはあるが、自立できるような仕組みが必要かと思う。
- 計画主任：G委員、H委員のおっしゃる意見が全てかと思う。表記について、認定農業者や集落営農に絞った対応は時代に沿った対応ではないため、括弧書きの内容を見直したい。ただ、担い手育成の表現は全てを包括するため適切であると考えている。
- 部会長：漁業関係の担い手についてであるが、とやま市漁協は組合員の年齢も若く、活気がある。マリンバンクの借り入れ利率は低く、儲かる事業があるからかと思う。

- 農業においても儲かることが重要であると思う。
- C委員：物産展関係で東京に行った際に聞いた話であるが、黒部米を東京へ出荷する量がないとのことであったが、実態はどうか。
  - H委員：名古屋方面へ準直売していることもあり、引き合いがあっても、量を確保できない状況である。
  - 部会長：黒部米だけでなく名水パークも含め、評判の良い商品があり、まだまだ可能性があるように思う。
  - C委員：やはり、食の連携によって産業振興がなされている面が強いように思う。価値が高まれば高まるほどブランド商品としても出しやすい。黒部市は宇奈月温泉や黒部峡谷など目玉となる観光資源を持っているが、周辺の市町村はそこまでの資源を持っておらず、物産と連携した観光施策を講じている。今後は黒部市も産業との連携を強め、冬の誘客対策を打っていくことが必要かと思う。
  - 部会長：市全体をコーディネートする人材が必要かと思う。漁業、農業、商業と個々で動くのではなく、小さいことからでも総合的に連携する事業が必要かと思う。
  - B委員：魚津市の場合は、農業祭と市の物産展を別々に実施していたが、一つにまとめて実施している。そのようなことが大事であると思う。
  - C委員：三日市の人が魚の駅などの人が集まるところに出向き、商売をする視点も重要である。規模が大きくなれば、呼んでくる地域も広がり、集まる人も増える。
  - G委員：農村環境や中山間地域の保全には水の利活用が必要である。マイクロ発電の導入においては、農業施設の維持管理等の視点も含めて実施してほしい。
  - 事務局：水の活用や循環型社会への対応については、第1部会で議論することとしてご理解いただきたい。
  - G委員：どのように整理されるかわからないが、いずれにしても水の管理や水量調整等は農業従事者でないとできないと思う。
  - 部会長：事務局にて第1部会と調整していただきたい。
  - A委員：事業メニューは重複して記載されていても良いと思う。
  - 事務局：同じ内容の記載が多くあると、混乱を招き兼ねない。記載するとなると農業に特化する記載となるが個別事業のイメージはあるのか。
  - G委員：マイクロ発電については、個人的に今後、国の補助事業として挙げられる可能性が高いと考えている。
  - 計画主任：黒部市は勾配のある水路があるため、中山間地域や平野部においてマイクロ発電の利用が可能かと思う。施設整備の個別事業として取り組んでいけるのではないかと考えている。
  - D委員：「農村地域の水環境等の保全・利活用」などとタイトルを変えることで対応は可能かと思う。
  - G委員：ぜひ入れてほしいと思う。

- 計画主任：事務局と検討したい。
- A委員：個別メニューについて、事業を連携した内容が見えると良いと思う。例えば、観光分野では訪日外国人が増加しているが、お金を落とすための仕組みがないのが現状であるため、商業と観光を結びつけて、免税店の開設などをメニューの中に入れてもらいたい。
- B委員：産業の各分野はそれぞれが密接に関わっており、体系の中で区分すると別々のものとして見られる。くろべ牧場まきばの風の運営強化においても、農業に区分されているが、集客の視点から見ると観光に区分される。記載方法を工夫してほしいと思う。
- 事務局：おっしゃることは理解できるが、体系的に全てを示すことは難しい。
- 部会長：予算など市の事情もあると思う。時間の都合もあるため、次の議題に移りたい。

(資料4：第2次黒部市総合振興計画中間報告案について、事務局より説明)

- 部会長：年号を統一してほしい。
- 事務局：他の部会からも同様の意見があった。対応を検討したい。

(意見書・提言書の提出について、審議会全体会について、事務局より説明)

委員からは特に意見なし

## 閉会

- 事務局：以上をもって、第2回部会を閉会する。第2回審議会全体会は、2月23日(木) 14:00から市民会館にて開催する。

以上